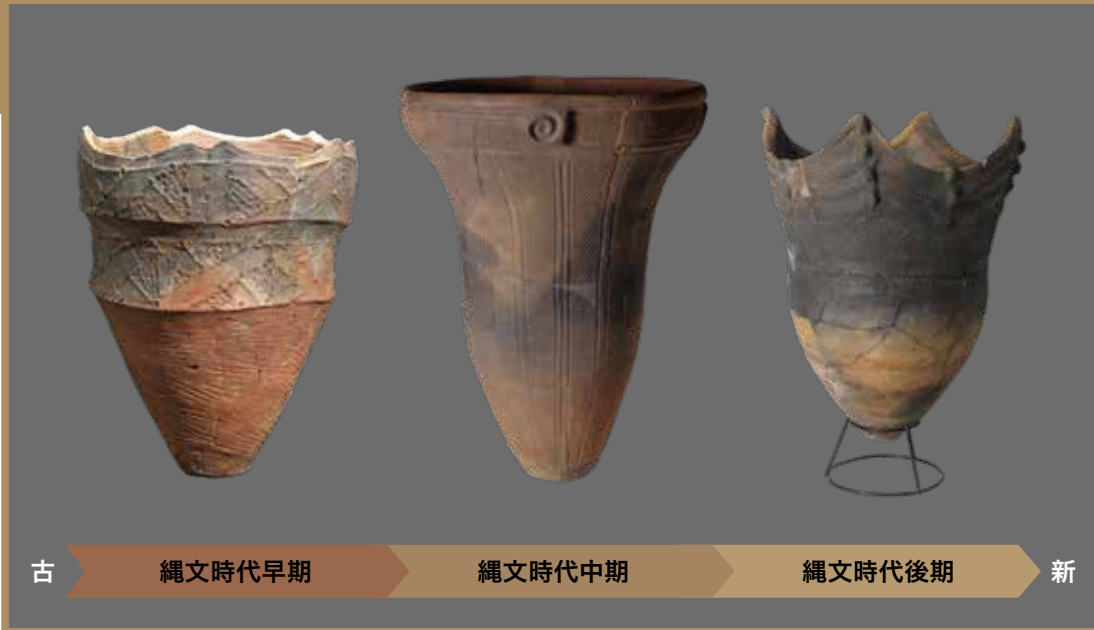


縄文土器の使用で生活がどのように

変わった？—土器に残る証拠から—



古

縄文時代早期

縄文時代中期

縄文時代後期

新

土器の使用が始まった

旧石器時代から縄文時代への移り変わりの中で大きな変化は、弓矢と土器が登場したことです。弓矢を使うと、イノシシやシカなどの獲物にすぐそばまで近づかなくても倒すことができ、一度に多量の食料を手に入れられます。では、土器を使うことで人々の生活にはどんな変化が起きたのでしょうか。

煮炊きの証拠

一万年以上続いたとされる縄文時代は、土器の形や文様の違いから、草創期・早期・前期・中期・後期・晩期の六つの時期に区分されています。写真の土器は、左が国分寺台の天神台遺跡で出土した早期の土器、中央が小田部小谷吹上遺跡で見つかった中期の土器、右は国分寺台の西広貝塚で出土した後期の土器です。いずれも深鉢形土器とされるもの

で、下半部が赤化しています。これは使われた際に熱を受け、変色したからです。この証拠から食物を調理するための鍋のように使われていたことが分かります。

より豊かな食生活へ

縄文時代の貝塚には大量に捨てられた貝がありますが、特に口をこじ開けるのも大変な二枚貝も、煮ることで口を自分で開きます。また固くて生では食べられないような植物も、煮れば柔らかくなって食べやすくなりますし、ものによっては煮沸することでアク抜きもできるでしょう。土器を使うようになって縄文時代の人々はそれまでよりも豊かな食生活が送れるようになりました。博物館で本物の土器をご覧ください。

【館長講座のお知らせ】

日時 2月24日(土)

午後2時～3時30分

人数 先着30人

内容 文化財の保護をめぐる

申込方法 当日30分前から博物館受付で申し込む。